

蒲刈町大浦出身の父をもつ寺内萬治郎（1890-1964）は「裸婦の寺内」と称され、裸婦画の制作で高い評価を得た洋画家です。大阪に生まれた寺内は中学校を卒業すると画家を志して上京、東京美術学校（現・東京藝術大学）に学びました。同校卒業後は文展や帝展に作品を出品し、着実に画壇での地位を固めてゆきます。寺内が裸婦に力を注ぐようになったのは、モデルを雇いポーズを取ってもらうようになった 1923 年頃で、2 年後の第 6 回帝展では裸婦を描いた作品で特選を受賞しています。生涯、絵を描くこと以外に特別な趣味をもたず、ひたむきに制作に打ち込み、1951 年には《横臥裸婦》（東京国立近代美術館蔵）と一連の裸婦画の功績により日本芸術院賞が授与されました。さらに 1959 年には日本芸術院会員にも選出されています。

本展では、室内での裸婦の様子を捉えた 1930 年代の前半期の作品から晩年の作品まで油彩画を紹介するとともに、線で女性の身体の特質に迫った水彩やインクによる素描を展覧します。寺内芸術の真髄ともいえる裸婦画を制作年代順に辿りながら、画家が追い求めた造形表現とは何であったのか考えをめぐらしてみませんか。



寺内萬治郎の常設展示施設 蘭島閣美術館別館

寺内萬治郎の絵画の常設展示施設である蘭島閣美術館別館では、年に数回、寺内の特集展示を行っています。また画家が愛用したイーゼルやパレットなど、ゆかりの品々もご覧いただけます。



小高い丘の上に立つ別館から、美しい海の眺望をお楽しみください。

近隣施設のご案内

下記の施設の他、江戸時代後期を代表する頼家ゆかりの茶室を移築した白雪楼、下蒲刈に生息する虫や世界の珍しい虫を展示している昆虫の家も是非ご覧ください。

● 蘭島閣美術館

所蔵品展Ⅰ

「開館 35 周年 蘭島閣美術館 心に響く名品展 前期」

会期：9 月 13 日 [日] ～ 10 月 26 日 [月]

● 三之瀬御本陣芸術文化館

所蔵品展Ⅰ「時のかけら 江戸の美と暮らし」

会期：9 月 13 日 [日] ～ 11 月 9 日 [月]

● 松濤園

・朝鮮通信使資料館

所蔵品展Ⅲ「朝鮮通信使が見た日本」

会期：9 月 2 日 [水] ～ 11 月 23 日 [月・祝]

・陶磁器館

所蔵品展Ⅲ「古伊万里の旅」

会期：9 月 2 日 [水] ～ 11 月 23 日 [月・祝]

交通案内

■ 自動車の場合

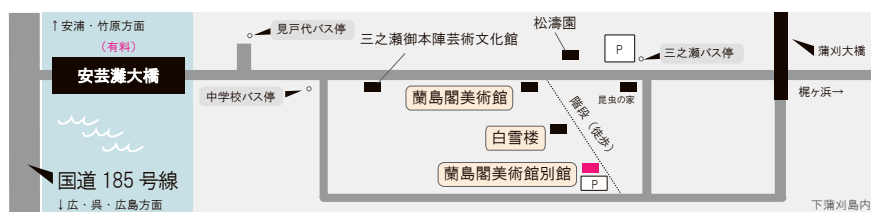
呉市内から国道 185 号線を竹原方面へ。安芸灘大橋（有料）を渡った最初の島が下蒲刈島です。下蒲刈市民センター前の無料駐車場をご利用ください。駐車場から徒歩で蘭島閣美術館（260m）→階段を使って白雪楼→蘭島閣美術館別館の順にお進みください。

指定施設にて 1,000 円以上ご利用の方に安芸灘大橋の帰りの通行券を進呈。
詳しくは、呉市観光案内所（TEL 0823-23-7845）まで。

■ 電車・バス利用の場合

JR 呉線「広駅」を下車。広駅前の道路を渡ったところにある「広駅前」バス停から瀬戸内産交運行の「宮農センター・沖友天満宮方面」行きバスに乗りし「三之瀬」バス停で下車。バス停から蘭島閣美術館別館まで徒歩。

〔バスに関するお問合せ〕
瀬戸内産交株式会社 TEL 0823-70-7051



アクセス方法



バス時刻表

